

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101752		
法人名	株式会社 百百		
事業所名	グループホーム「笑がお」		
所在地	甲府市羽黒町1461-1		
自己評価作成日	平成28年10月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年10月31日(月)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

10年間の運営推進会議では、地域の皆様やご家族から、たくさんのアドバイスや励ましのお言葉を頂き、徐々に本音で何でも話し合える会になったと実感しております。出席して下さる皆さんも多く、前向きな意見がいつも「笑がお」の原動力となっていて、「笑顔」の方針にある地域の方々やご家族の方々と信頼関係が構築出来ています。地域のボランティアの方々との交流もその証と思っています。また終末期の対応しうる最大限の支援のお手伝いをして12年になります。看取りをしたケースは21例ですが、どの方も馴染みの関係の中で穏やかな最期でした。ご家族や医療関係者との信頼関係が長年看取りに繋がっていて、職員のやりがいにもなっています。在宅医療ネットワークの新潟フォーラムで事例発表やGH協会や甲府市主催の研修で報告させて頂き「看取り」の在り方を一緒に考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は甲府市の北西部に位置し、周辺は小学校、公民館、寺院、神社、アパートなどが密集している住宅地の高台にあり、同じ会社のデイサービス事業所が隣接している。グループホームは、開所当時から、地域の行事参加や近隣住民との交流に積極的に取り組み、風通しの良い、開かれたグループホームとして自治会の一員となっている。職員は看護師、介護福祉士、ケアマネジャー等の資格を有し、医療、福祉、ケアマネジメントの視点から管理者を中心として、人材育成や施設運営に努めている。月2回のカンファレンスには全職員が出席し、利用者の支援や行事の実施等を協議し情報を共有している。開所当初から看取りにも取り組み、本人、家族の意向に沿った終末期の支援を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム笑がお

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	最後まで住み慣れた地域で、その方らしく暮らし続けられるよう全職員が理念と方針を共有してケアしている。特にチームワークを大事にしながら、「あきらめないケア」を探求している。全職員が月2回意思統一できる環境を整えているのも有意義である。	最後まで住み慣れた地域で、その方らしく暮らし続けられるよう全職員が理念と方針を共有してケアしている。特にチームワークを大事にしながら、「あきらめないケア」を探求している。全職員が月2回意思統一できる環境を整えているのも有意義である。	理念である「笑がお」を要所に掲げ、職員の信条としている。月2回のカンファレンスは全職員が出席し、利用者情報の共有と支援方法を協議し、連携のとれたケアをしている。利用者の笑顔を引き出す為に、重度化した方もベッドから車いすに移乗し、フロアで過ごし「あきらめないケア」を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加して、馴染みの関係があり、12年間交流できている。特に地域の運営推進委員6名のバックアップもあり、地域の一員として歓迎してくれていて心強い。日常的にも屋外活動は多く、地域のボランティアの交流も10年になる。	地域の行事に参加して、馴染みの関係があり、12年間交流できている。特に地域の運営推進委員6名のバックアップもあり、地域の一員として歓迎してくれていて心強い。日常的にも屋外活動は多く、地域のボランティアの交流も10年になる。	開所時から積極的に近隣住民との交流から信頼関係ができています。自治会の会議や行事に参加し、文化祭では見学だけでなく、利用者が作った作品を出品し入賞したこともある。毎月1回、地域ボランティアの方の来所や防犯/パトロール隊の巡回もあり、また、防災訓練では自治会の協力も得られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアについて地域の方々とは話し機会は日常的にあり、個別の相談事や、民生委員を通しての相談事など様々である。また多くのボランティアを受け入れながら、認知症の理解をしてもらい、介護予防にも地域貢献している。	認知症ケアについて地域の方々とは話し機会は日常的にあり、個別の相談事や、民生委員を通しての相談事など様々である。また多くのボランティアを受け入れながら、認知症の理解をしてもらい、介護予防にも地域貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、多くのご家族の出席のもと、活動状況、防災対策、事故やインシデント、看取り、地域との関わりなど様々なテーマに沿って質問や意見を頂き、地域の方と共に考え、たくさんアイデアを頂きすべてが運営に反映できている。	運営推進会議を通して、多くのご家族の出席のもと、活動状況、防災対策、事故やインシデント、看取り、地域との関わりなど様々なテーマに沿って質問や意見を頂き、地域の方と共に考え、たくさんアイデアを頂きすべてが運営に反映できている。	会議は2か月に1回開催し、全家族に通知して欠席者には会議録を郵送している。議題の中で事故、インシデント、ヒヤリハット等も報告し理解を得ている。駐車場を拡張する際に畑が狭くなり、近所の方が畑を貸してくれた事、祭りの神輿が施設の玄関先まで来てくれる事等、会議をとおして実現した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護サービスに関する相談は連携していて、事業所の抱える課題は、何でも指導のできる環境にある。また市の事業であるふれあいサポーターボランティアが毎月10名ほど受け入れ、社会福祉士の研修受け入れをするなど、協力体制を整えている。	介護サービスに関する相談は連携していて、事業所の抱える課題は、何でも指導のできる環境にある。また市の事業であるふれあいサポーターボランティアが毎月10名ほど受け入れ、社会福祉士の研修受け入れをするなど、協力体制を整えている。	成年後見制度の申請、毎月1回(第一水曜日)ふれあいサポーターボランティア10名の受け入れ、市の研修として社会福祉士の体験受け入れ、グループホーム協会の研修講師等事業所のスキルを生かした取り組みを行い、市との連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一度は必ず代表がマニュアルに沿って勉強会を開催して周知すると同時に、GH協会等の研修にも参加して、全職員が理解しており、不適切なケアに繋がらないよう、カンファレンスで、毎回利用者本位のあるべきケアについて話し合っている。	年に一度は必ず代表がマニュアルに沿って勉強会を開催して周知すると同時に、GH協会等の研修にも参加して、全職員が理解しており、不適切なケアに繋がらないよう、カンファレンスで、毎回利用者本位のあるべきケアについて話し合っている。	マニュアルがあり、年1回勉強会を実施。日常的なケアはカンファレンスで協議し、職員間で共有している。玄関は開放しており、チャイムが鳴る。外出したい方には職員が付き添いニーズに応じている。スピーチロックはしない支援を心掛け、待たせない方法として、職員と一緒に行動してもらうこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・身体拘束マニュアルを整備して、施設内外の研修会も積極的に参加して知識を身につけ、カンファレンスなどで不適切なケアがないか、職員間で情報を共有しながら、より良いケアに向けてケア内容の改善を図って、一丸となっている。	虐待・身体拘束マニュアルを整備して、施設内外の研修会も積極的に参加して知識を身につけ、カンファレンスなどで不適切なケアがないか、職員間で情報を共有しながら、より良いケアに向けてケア内容の改善を図って、一丸となっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外研修等を通して学ぶ機会があり、スキルアップしている。施設内では研修報告会を設けて、職員間で共有。また運営推進会議で、地域包括支援センターの社会福祉士にアドバイスをもらい成年後見制度については利用者には活用している。	施設外研修等を通して学ぶ機会があり、スキルアップしている。施設内では研修報告会を設けて、職員間で共有。また運営推進会議で、地域包括支援センターの社会福祉士にアドバイスをもらい成年後見制度については利用者には活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談や申し込みの際、事業所の理念や方針をお伝えしながら、不安や疑問点があるか確認をして、入居時は、重要事項説明書に沿って説明している。改定や解約についても同様で説明して同意を受けている。	入居の相談や申し込みの際、事業所の理念や方針をお伝えしながら、不安や疑問点があるか確認をして、入居時は、重要事項説明書に沿って説明している。改定や解約についても同様で説明して同意を受けている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム笑がお

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通して、多くのご家族の出席のもと、活動状況、防災対策、事故やインシデント、看取り、地域との関わりなど様々なテーマに沿って質問や意見を頂き、地域の方々と共に考え、たくさんアイデアを頂きすべてが運営に反映できている。	運営推進会議を通して、多くのご家族の出席のもと、活動状況、防災対策、事故やインシデント、看取り、地域との関わりなど様々なテーマに沿って質問や意見を頂き、地域の方々と共に考え、たくさんアイデアを頂きすべてが運営に反映できている。	毎月管理者から家族あてに手紙を出して、利用者の衣替えのお願いや近況を伝えつつ行事参加に繋げている。毎年30以上の行事計画があり、特に夏祭りは家族交流会として多くの参加者がある。運営推進会議でも利用者や家族の発言の機会があり、出された意見を運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しては、職員の自発性を尊重して、月2回開催されるカンファレンスでは意見や提案を、職員間で共有してもらい、企画から実行までチーム力で成り立っている事も多く、責任感を個々に養っている。	運営に関しては、職員の自発性を尊重して、月2回開催されるカンファレンスでは意見や提案を、職員間で共有してもらい、企画から実行までチーム力で成り立っている事も多く、責任感を個々に養っている。	7月と12月に職員とのヒアリングを実施。事前に自己評価を提出してもらい、それを管理者が評価する。メンタルケアが必要であれば個人的な面接を行い、離職率は低い。月2回のカンファレンスで協議しているので、職員の意見を聴く機会は多く、行事等の実施に企画者の考えが反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「キャリアパス能力シート」に沿って、年2回業務内容を確認して、やりがいにつながっているか、健康状態はどうかなど全般的な職場環境を把握して、向上心が持てるように配慮している。	「キャリアパス能力シート」に沿って、年2回業務内容を確認して、やりがいにつながっているか、健康状態はどうかなど全般的な職場環境を把握して、向上心が持てるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回行う面接を通して、「キャリアパス能力シート」にそって目的意識を確認しながら希望を聞き、資格取得や研修項目について選択している。法人内研修は12年間欠かすことなく、年6回実践していて、講師は外部から願っている。	年2回行う面接を通して、「キャリアパス能力シート」にそって目的意識を確認しながら希望を聞き、資格取得や研修項目について選択している。法人内研修は12年間欠かすことなく、年6回実践していて、講師は外部から願っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会を通じて交流する機会は多く、10か所以上のホームを見て回りながら自施設の参考にしていく。また研修会を通して馴染みの関係が出来ていて、ネットワークづくりがある。他のグループホームの運営推進会議の委員もしている。	グループホーム協会を通じて交流する機会は多く、10か所以上のホームを見て回りながら自施設の参考にしていく。また研修会を通して馴染みの関係が出来ていて、ネットワークづくりがある。他のグループホームの運営推進会議の委員もしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常にコミュニケーションを欠かさず、不安を助長しないように寄り添い、思いを確認した上で希望に沿って行動を共にしながら、馴染みの関係が早くに構築できるように、全職員が一丸となって耳を傾けている。	常にコミュニケーションを欠かさず、不安を助長しないように寄り添い、思いを確認した上で希望に沿って行動を共にしながら、馴染みの関係が早くに構築できるように、全職員が一丸となって耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申し出の段階からお困りの事や心配事など共有している。入居の際は更に状況の把握に努めながら、不安な事や困っている事に耳を傾けながら、私たちが出来る事、家族の協力が必要な事など詳細に話し合い、信頼関係を築いている。	入居の申し出の段階からお困りの事や心配事など共有している。入居の際は更に状況の把握に努めながら、不安な事や困っている事に耳を傾けながら、私たちが出来る事、家族の協力が必要な事など詳細に話し合い、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ます必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から優先すべき課題を整理して、本人と家族の接点を多く持ち暫定プランに反映。必要に応じて一緒に自宅に足を運んだり、親しんでいた方に会ったり、馴染んでいたデイサービスと一緒にいたり「その時」に安心のサービスを展開している。	入居前から優先すべき課題を整理して、本人と家族の接点を多く持ち暫定プランに反映。必要に応じて一緒に自宅に足を運んだり、親しんでいた方に会ったり、馴染んでいたデイサービスと一緒にいたり「その時」に安心のサービスを展開している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩者として、いろいろ教えてもらい日々の生活は成り立っている。昔ながらの行事は利用者の意見を反映し力を発揮。人としての在り方もありがたく聞くことがあり、相談事を持ちかけている。私たちの学びの場でもあり、職員が癒されている。	人生の先輩者として、いろいろ教えてもらい日々の生活は成り立っている。昔ながらの行事は利用者の意見を反映し力を発揮。人としての在り方もありがたく聞くことがあり、相談事を持ちかけている。私たちの学びの場でもあり、職員が癒されている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム笑がお

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙の中で、行事予定や、近況報告をしながら、ご家族の協力を仰ぐことも多く、外出や面会を通して絆を大切にしている。また相談を持ちかけながら、何が一番良いか意見を反映するなど一緒に支えている。	毎月のお手紙の中で、行事予定や、近況報告をしながら、ご家族の協力を仰ぐことも多く、外出や面会を通して絆を大切にしている。また相談を持ちかけながら、何が一番良いか意見を反映するなど一緒に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望に沿って家に行く事もあり、馴染みの方たちと触れ合っている。また「笑がお」にいる事をの了承を得る為、面会も多く馴染みの人との交流が出来る。地域の運動会や文化祭、お祭り、買い物を通して馴染みの場所との接点は多い。	ご本人の希望に沿って家に行く事もあり、馴染みの方たちと触れ合っている。また「笑がお」にいる事をの了承を得る為、面会も多く馴染みの人との交流が出来る。地域の運動会や文化祭、お祭り、買い物を通して馴染みの場所との接点は多い。	入居する前に、本人が住んでいた場所や周辺の様子を確認し、馴染みの人や場所を把握する。入居後も昔の仲間が面会に来たり、文化祭で旧知の方に会うこともある。住んでいた家、コーヒーストック、本屋、美容室等、個人の馴染みの場所に行きたい時は管理者が付き添い迅速にニーズに応えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士の関係性を大事に、住み分けを行いゆっくりとお茶をしたり、おしゃべりしている。重度化している方たちの面倒をお願いして、職員と一緒に顔を拭いたり、手を拭いたり、車イスを一緒に押したりとお世話するなど、家族的な関わりがある。	気の合う人同士の関係性を大事に、住み分けを行いゆっくりとお茶をしたり、おしゃべりしている。重度化している方たちの面倒をお願いして、職員と一緒に顔を拭いたり、手を拭いたり、車イスを一緒に押したりとお世話するなど、家族的な関わりがある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りをした遺族の方が大半ではあるが、お手紙や電話での交流、また行事にお誘いしたり、野菜や果物を持って遊びに来て下さったり、ボランティアとして定期的に交流したり、お盆にはお焼香に行かせて頂き、疑似家族として繋がりがあがる。	看取りをした遺族の方が大半ではあるが、お手紙や電話での交流、また行事にお誘いしたり、野菜や果物を持って遊びに来て下さったり、ボランティアとして定期的に交流したり、お盆にはお焼香に行かせて頂き、疑似家族として繋がりがあがる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に寄り添いながら、コミュニケーションを図る中で、アセスメントシートでは得られなかった、新たな思いや得意とする事、楽しい事などの把握、カンファレンスの中で職員間で共有して、その方らしい喜びや笑顔が引き出せるように試行錯誤している。	日常的に寄り添いながら、コミュニケーションを図る中で、アセスメントシートでは得られなかった、新たな思いや得意とする事、楽しい事などの把握、カンファレンスの中で職員間で共有して、その方らしい喜びや笑顔が引き出せるように試行錯誤している。	入居時に情報を共有し、センター方式の学びを基本に認知症専門の支援シートを作成している。入居後の状況は、カンファレンスで情報を共有し、利用者の意向に寄り添う支援に繋げている。入居当初に利用者の想いを受け止め、しっかり寄り添うことで職員との信頼関係が築けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートに「センター方式」を用いており、その方らしさ・その人の安心・心身の力の発揮・馴染みの暮らしの継続等、出来る力が活かせるように、本人本位の考え方で情報の把握に努めている。	アセスメントシートに「センター方式」を用いており、その方らしさ・その人の安心・心身の力の発揮・馴染みの暮らしの継続等、出来る力が活かせるように、本人本位の考え方で情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントで知り得た情報を基に、暫定プランを作成して日頃の暮らしぶりを把握しながら、一日の過ごし方、有する力、心身状態の把握をして、職員間で情報を共有する。	アセスメントで知り得た情報を基に、暫定プランを作成して日頃の暮らしぶりを把握しながら、一日の過ごし方、有する力、心身状態の把握をして、職員間で情報を共有する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングをしながら、現状のケアの在り方と今後の課題を、事前にケアマネジャーと話し合い、月2回開催される担当者会議で問題提起して、みんなでアイデアを出し合い、ご家族や医療関係者の意見も反映しながらプランを作成している。	モニタリングをしながら、現状のケアの在り方と今後の課題を、事前にケアマネジャーと話し合い、月2回開催される担当者会議で問題提起して、みんなでアイデアを出し合い、ご家族や医療関係者の意見も反映しながらプランを作成している。	入居時の情報を基に、暫定的なプランを作成し、1か月後本プランを作成する。モニタリングは見直しシートにより半年に1回行っている。モニタリングの工夫として、生活記録とカンファレンス評価が書き込めるケース記録票を使い、毎日の評価を実施。モニタリングの結果は生活援助計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に考察や気づきが書けるように、ケアプランに沿った記録の仕組みとなっているので、職員は問題意識を持って次に繋がるように記録して申し込み、情報を共有している。またそれが担当者会議で話し合われ、更新時のプランに反映している。	記録に考察や気づきが書けるように、ケアプランに沿った記録の仕組みとなっているので、職員は問題意識を持って次に繋がるように記録して申し込み、情報を共有している。またそれが担当者会議で話し合われ、更新時のプランに反映している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム笑がお

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○自宅のカギを預かって衣替えのお手伝い、必要な衣類や日用品の購入、公的手続きの代行、入居時の荷物搬入のお手伝い、病院受診等、そのとき必要な援助をご家族と連携しながら柔軟にしている。	○自宅のカギを預かって衣替えのお手伝い、必要な衣類や日用品の購入、公的手続きの代行、入居時の荷物搬入のお手伝い、病院受診等、そのとき必要な援助をご家族と連携しながら柔軟にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーや本屋への買い物、地域のお祭り、文化祭、運動会などに参加しながら馴染みの関わりが出来ている。また地域ボランティアの訪問が毎月10人ほど定期的であり、馴染みの関係の中で散歩等に同行している。	近隣のスーパーや本屋への買い物、地域のお祭り、文化祭、運動会などに参加しながら馴染みの関わりが出来ている。また地域ボランティアの訪問が毎月10人ほど定期的であり、馴染みの関係の中で散歩等に同行している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看取りを視野に主治医と提携している為、入居時はご家族の理解を得ながら、かかりつけ医を変更している。ご家族同行の受診もあるが、定期的に看護職が同行して日頃の状況を報告。重度化している利用者は往診を依頼し柔軟に対応している。	看取りを視野に主治医と提携している為、入居時はご家族の理解を得ながら、かかりつけ医を変更している。ご家族同行の受診もあるが、定期的に看護職が同行して日頃の状況を報告。重度化している利用者は往診を依頼し柔軟に対応している。	入居前のかかりつけ医の方もいたが、往診を受けている方は6名、受診している方は13名で、現在は全員が同じ往診医を主治医としている。内科以外は訪問歯科、訪問マッサージ、居宅療養訪問指導として薬剤師が毎週1回(月4回)来所して、バイタルチェックや服薬指導を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護職が常駐していて、24時間対応が可能。相談が出来る環境にある。毎日利用者の状況を報告しながら、看護師が必要に応じて医師の指示を仰いだり、受診をしている。	日常的に看護職が常駐していて、24時間対応が可能。相談が出来る環境にある。毎日利用者の状況を報告しながら、看護師が必要に応じて医師の指示を仰いだり、受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	近年入院するケースはほとんどなく、かかりつけ医と訪問看護ステーションとの連携で、ホーム内で治療することが多い。家族も入院を望まず、環境変化による認知機能の低下を落胆する事も多い。万が一入院する事があっても、家族の希望を優先して、早期退院に向けて医師と連携している。	近年入院するケースはほとんどなく、かかりつけ医と訪問看護ステーションとの連携で、ホーム内で治療することが多い。家族も入院を望まず、環境変化による認知機能の低下を落胆する事も多い。万が一入院する事があっても、家族の希望を優先して、早期退院に向けて医師と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より「笑がお」の方針を伝え、その都度利用者・家族の希望を確認。かかりつけ医が「看取り」をしてくれることもあり、家族の希望が「笑がお」であるなら、拒む理由は何もなく、今までに21名の看取りをした。ご遺族の安堵した感謝の気持ちに応えつつ、逆に自分たちの学びと成長に感謝している。	入居時より「笑がお」の方針を伝え、その都度利用者・家族の希望を確認。かかりつけ医が「看取り」をしてくれることもあり、家族の希望が「笑がお」であるなら、拒む理由は何もなく、今までに21名の看取りをした。ご遺族の安堵した感謝の気持ちに応えつつ、逆に自分たちの学びと成長に感謝している。	入居時に重度化、終末期の利用者、家族の意向を確認している。「笑がお」の方針を伝え、利用者、家族も訪問医と信頼関係を築きながら、重度化した場合も救急医療で入院することは少なく、往診を受けながらケアし、「看取り」をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	年に一回以上は定期的な勉強会を開催し、全職員が学びを得ている。また日頃からマニュアルに沿って、ヒヤリ・ハットやインシデントの都度、早めの行動をしながら、月2回のカンファレンスで分析をしながら実践力を身につけている。	年に一回以上は定期的な勉強会を開催し、全職員が学びを得ている。また日頃からマニュアルに沿って、ヒヤリ・ハットやインシデントの都度、早めの行動をしながら、月2回のカンファレンスで分析をしながら実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自然災害も含めて、より詳細なマニュアルの見直しが出来ていて、地域の協力体制もいただき防災訓練も定期化している。防災業者との連携で、消防署との通報訓練も全職員が周知できるようになっている。	自然災害も含めて、より詳細なマニュアルの見直しが出来ていて、地域の協力体制もいただき防災訓練も定期化している。防災業者との連携で、消防署との通報訓練も全職員が周知できるようになっている。	デイサービス事業所と合同学習会は年6回あり、会社としてリスク管理を行っている。防災訓練は年2回春と秋に実施。初期消火・通報・避難誘導等を行い、自治会や民間の防災士指導員の協力を得ている。夜間想定訓練、水害や土砂崩れ等の避難訓練も含み、マニュアルの見直しをしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者との信頼関係を大事にし、得られたアセスメントをしっかりと把握しながら、職員間で情報を共有してより良い対応をする為に創意工夫している。利用者が誇りやプライバシーを損ねる内容については、失敗談を開示しながら、丁寧に対応している。	利用者との信頼関係を大事にし、得られたアセスメントをしっかりと把握しながら、職員間で情報を共有してより良い対応をする為に創意工夫している。利用者が誇りやプライバシーを損ねる内容については、失敗談を開示しながら、丁寧に対応している。	夜間は、部屋に鍵をかけている方もいるので、巡回時はマスターキーで開けて見守り巡回している。基本は名前で呼ぶが、その方に合った呼び方をし、馴れ合いにならないよう配慮している。同性介護、入室時のノック、必要に応じて食事誘導、トイレ誘導等プライバシーに配慮したケアをしている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム笑がお

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に希望を確認して、ドライブを楽しむ人、買い物、近所への散歩、花摘みや水やり、草取り等様々に展開。重度化に伴い離床だけでなく、希望を聞きながら、午前午後共に臥床する方もあり、その方のペースを大切に生活リズムを整えている。	個別に希望を確認して、ドライブを楽しむ人、買い物、近所への散歩、花摘みや水やり、草取り等様々に展開。重度化に伴い離床だけでなく、希望を聞きながら、午前午後共に臥床する方もあり、その方のペースを大切に生活リズムを整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別に希望を確認して、ドライブを楽しむ人、買い物、近所への散歩、花摘みや水やり、草取り等様々に展開。重度化に伴い離床だけでなく、希望を聞きながら、午前午後共に臥床する方もあり、その方のペースを大切に生活リズムを整えている。	個別に希望を確認して、ドライブを楽しむ人、買い物、近所への散歩、花摘みや水やり、草取り等様々に展開。重度化に伴い離床だけでなく、希望を聞きながら、午前午後共に臥床する方もあり、その方のペースを大切に生活リズムを整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時やお出掛け時の洋服選びを一緒にして、希望を聞きながらお手伝いしている。また美容院では髪型の希望を聞きながら、カットや毛染めをしたり、化粧品やマニキュアのお手伝いをしてしている。	起床時やお出掛け時の洋服選びを一緒にして、希望を聞きながらお手伝いしている。また美容院では髪型の希望を聞きながら、カットや毛染めをしたり、化粧品やマニキュアのお手伝いをしてしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	決められたメニューではあるが、一緒に盛り付けをしたり、テーブルの準備をしたり、食器を洗ったりと個別の力を活かしている。また気分転換に外食や手作り弁当でのピクニック、希望を聞いて巻きずしやほうとう、流しそうめんをしたり等楽しんでいる。	決められたメニューではあるが、一緒に盛り付けをしたり、テーブルの準備をしたり、食器を洗ったりと個別の力を活かしている。また気分転換に外食や手作り弁当でのピクニック、希望を聞いて巻きずしやほうとう、流しそうめんをしたり等楽しんでいる。	年間行事に沿った行事食や、個別のニーズに応じた外食の機会がある。認知症により、食事を拒否する方には「あきらめないケア」を実践し、気分転換できるようにしたり、手伝いができる方には、下ごしらえや調理、片付けなど、その方の得意な事を職員と一緒に行うようになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調管理では、日常の飲食量のチェックは職員間で問題意識をもち、食事が少ない方は、嗜好品も取り入れるなど様々なアプローチをしている。一日の運動量も個別に違うので、必要に応じて飲水量の目安も個別の状態を見ながら確保している。	体調管理では、日常の飲食量のチェックは職員間で問題意識をもち、食事が少ない方は、嗜好品も取り入れるなど様々なアプローチをしている。一日の運動量も個別に違うので、必要に応じて飲水量の目安も個別の状態を見ながら確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は見守りながら導いて、磨き残しがない様にしている。また介助が必要な方は居宅療養管理指導を受けている歯科医師や歯科衛生士に磨き残しのチェックをしてもらい、指導を受けながら口腔ケアに努めている。	ご自分で出来る方は見守りながら導いて、磨き残しがない様にしている。また介助が必要な方は居宅療養管理指導を受けている歯科医師や歯科衛生士に磨き残しのチェックをしてもらい、指導を受けながら口腔ケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜オムツ使用者は3名いるが、個別の排泄パターンを職員間で共有して、習慣を活かしてトイレに誘導。特に排泄リズムに関しては、時間帯のタイミングを大事にし、トイレでの自然排便が出来るよう、オムツ使用者もトイレでの排便を実践している。	昼夜オムツ使用者は3名いるが、個別の排泄パターンを職員間で共有して、習慣を活かしてトイレに誘導。特に排泄リズムに関しては、時間帯のタイミングを大事にし、トイレでの自然排便が出来るよう、オムツ使用者もトイレでの排便を実践している。	リハビリパンツの方が10人、布パンツの方が5人、オムツの方が3人いる。入居後にオムツからリハビリパンツに変わった方もいる。排泄パターンは職員のカンファレンス時に共有し、個々の方の体調や排泄の変化やタイミング等を確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活と運動を重視しており、飲食物や食材を小まめに見直し。日常の運動量も、個別にプランに沿って外出、体操、立ち上がり訓練など展開。また頑固な便秘は主治医と相談、整腸剤の調整をし、全利用者がトイレに座る習慣は大事にしている。	食生活と運動を重視しており、飲食物や食材を小まめに見直し。日常の運動量も、個別にプランに沿って外出、体操、立ち上がり訓練など展開。また頑固な便秘は主治医と相談、整腸剤の調整をし、全利用者がトイレに座る習慣は大事にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員が都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、ご本人の希望に沿って促して、毎日入る方、週に一度だけの方など様々である。認知機能の重度化により、身体機能が著しく低下した方に関しては、時間にゆとりが必要なため、ゆとりと早い時間での対応となっている。	基本的には、ご本人の希望に沿って促して、毎日入る方、週に一度だけの方など様々である。認知機能の重度化により、身体機能が著しく低下した方に関しては、時間にゆとりが必要なため、ゆとりと早い時間での対応となっている。	利用者のニーズに応じて入浴日や時間を決めている。毎日入る方もいるが、認知症がある方は衣類の準備、衣類の着脱などの手順がうまく出来ず、入浴が苦手な方もいる。季節がら、ゆず湯等を楽しむこともあり、今迄の生活歴も大切にしている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム笑がお

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や一日の生活リズムを知り、個別の対応が出来ていて、起床時間や食事時間など様々である。休息時間の持ち方も様々で、体調に配慮しながら安心して気持ちよく眠れるような暮らしが出来るように配慮している。	生活習慣や一日の生活リズムを知り、個別の対応が出来ていて、起床時間や食事時間など様々である。休息時間の持ち方も様々で、体調に配慮しながら安心して気持ちよく眠れるような暮らしが出来るように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医が通院や往診で知り得た内容は、看護職員が現場に伝えると同時に、居宅療養管理指導を全利用者が受けている為、管理薬剤師により薬の指導がいきわたる仕組みが出来ている。	主治医が通院や往診で知り得た内容は、看護職員が現場に伝えると同時に、居宅療養管理指導を全利用者が受けている為、管理薬剤師により薬の指導がいきわたる仕組みが出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前に「センター方式」でのアセスメント情報を知り、職員間で共有。個別の関わりを活かしながら、楽しみ事や役割、嗜好品を掌握。月に2回開かれる担当者会議で情報を共有し、更に楽しみ事や役割など気付きをもって関わっている。	入居前に「センター方式」でのアセスメント情報を知り、職員間で共有。個別の関わりを活かしながら、楽しみ事や役割、嗜好品を掌握。月に2回開かれる担当者会議で情報を共有し、更に楽しみ事や役割など気付きをもって関わっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別のレベルに応じて様々ではあるが、日常的に近隣の散歩や地域の行事への参加、季節に合わせてのドライブ、外食、様々な花見や買い物、ピクニックなど出かける機会が多い。また、ご家族の面会も多くあり、一緒にお墓参りや外での食事、親戚の集まり、家に帰るなどご家族の協力が得られていて週末の楽しみの一つになっている。	個別のレベルに応じて様々ではあるが、日常的に近隣の散歩や地域の行事への参加、季節に合わせてのドライブ、外食、様々な花見や買い物、ピクニックなど出かける機会が多い。また、ご家族の面会も多くあり、一緒にお墓参りや外での食事、親戚の集まり、家に帰るなどご家族の協力が得られていて週末の楽しみの一つになっている。	行事の外出の他に、日常的に近隣への散歩、ドライブ、花見、買い物等個人のニーズに応じて外出している。早朝から戸外に出たい希望の方にも、職員が寄り添い対応したこと、満足感を得られスムーズに戻る事ができた。墓参り、外食、親戚の行事等は家族とともに出かける機会がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期購読の本を買う方、不足の化粧品を買う方、ズボンやシャツなど追加購入する方等の個別の買い物に出かけた時、移動パン屋さんやヤクルトさんが来た時など、希望に応じて使えるように支援している。	定期購読の本を買う方、不足の化粧品を買う方、ズボンやシャツなど追加購入する方等の個別の買い物に出かけた時、移動パン屋さんやヤクルトさんが来た時など、希望に応じて使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームで毎月出しているご家族へのお手紙に、直筆のメッセージを添えたり、写真を送ったりしている。電話はお友達やご家族からかかってくる事もあるが、ご本人がかかるといった希望はなく、必要に応じての対応である。	ホームで毎月出しているご家族へのお手紙に、直筆のメッセージを添えたり、写真を送ったりしている。電話はお友達やご家族からかかってくる事もあるが、ご本人がかかるといった希望はなく、必要に応じての対応である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は季節の花を飾ったり、観葉植物やみんなの写真、のれんの配色等色遣いに配慮しながら空間づくり。居間では「美しい日本の歌」のメロディーを流し、音量を調整して心地よく生活が出来るように配慮している。また高台の家なので、風通しも良く季節感をいつも感じる事が出来ている。	共有の空間は季節の花を飾ったり、観葉植物やみんなの写真、のれんの配色等色遣いに配慮しながら空間づくり。居間では「美しい日本の歌」のメロディーを流し、音量を調整して心地よく生活が出来るように配慮している。また高台の家なので、風通しも良く季節感をいつも感じる事が出来ている。	高台に立地しているため、食堂やフロアからは近隣の山々や富士山が見渡せ素晴らしい景色である。廊下やフロアの壁面には職員の紹介や利用者の行事写真等がバランスよく配置され、生活のようすがうかがえる。又、利用者の書、作品も飾られている。廊下やトイレ、浴室等の清掃は職員がして清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先や事務所、廊下等、限られたスペースではあるが、気の合うお仲間同士が雑談したり、独りで新聞や本等が読める機の設置もしている。箱庭のような空間では、ティータイムを楽しむお仲間もいて、個々に居場所が選ばれるように工夫している。	玄関先や事務所、廊下等、限られたスペースではあるが、気の合うお仲間同士が雑談したり、独りで新聞や本等が読める機の設置もしている。箱庭のような空間では、ティータイムを楽しむお仲間もいて、個々に居場所が選ばれるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は馴染んだ家具、仏壇、装飾品、机、椅子等可能な限り使い慣れたものを、本人や家族と相談しながら一緒に運び入れ、愛着ある小物類、衣類に関しても気軽に身につけるようお部屋に収納して、安心できる空間づくりに配慮している。	入居の際は馴染んだ家具、仏壇、装飾品、机、椅子等可能な限り使い慣れたものを、本人や家族と相談しながら一緒に運び入れ、愛着ある小物類、衣類に関しても気軽に身につけるようお部屋に収納して、安心できる空間づくりに配慮している。	各部屋の入口には表札替わりに、家族や職員や本人が作成した飾りがある。居室の備え付けは、カーテンとエアコンで、タンス、ベッド、仏壇、写真、小物等は、本人の好みや馴染みの品である。週3回、居室専門の方が清掃するので、どの部屋もさっぱりと整理され清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	限られた空間ではあるが、水回りや廊下の手すりの設置、座りやすい椅子の配置、トイレの案内、目印ののれん等可能な限りわかりやすくしている。また台所のお手伝いや掃除、洗濯、個別の得意とする役割など手軽に出来るよう環境を整えている。	限られた空間ではあるが、水回りや廊下の手すりの設置、座りやすい椅子の配置、トイレの案内、目印ののれん等可能な限りわかりやすくしている。また台所のお手伝いや掃除、洗濯、個別の得意とする役割など手軽に出来るよう環境を整えている。		